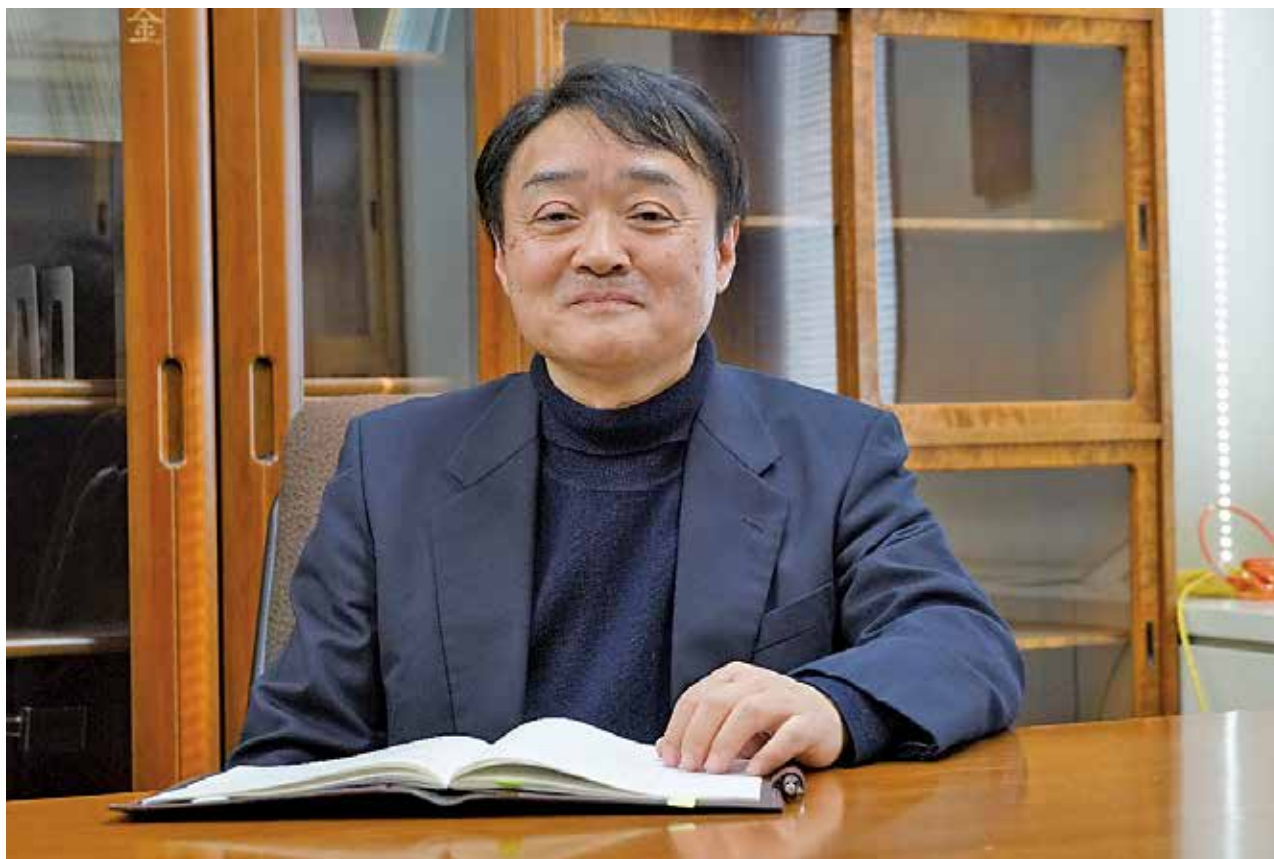




第28回「教育研究論文・教育実践賞」 審査結果報告……………2～4	学び創造研究会PR……………8
各種助成のご案内……………5	ホームページ等のご紹介……………9
教育研究所だより……………6	各種募集のご案内……………9
5月の研修ガイド……………6	職員の異動について……………9
災害見舞金のご案内……………7	秘伝「信州教育の極意」PR……………10
61才以上の皆さまへのご案内……………7	100年館の絵……………10

岩川直樹信濃教育会教育研究所新所長就任



🌸🌸🌸🌸🌸🌸🌸🌸 所長就任にあたり 🌸🌸🌸🌸🌸🌸🌸🌸

この4月、信濃教育会教育研究所長に就任しました岩川直樹です。私のような者がこの大役を担うことに身の震える深い責務を感じています。

思えば、私が教育研究を道に定めたのは、長野県の教師たちとの出会いによるものでした。そのとき鮮明に感じたのは、ああ、ここにこそ真の教育探求があるという思いでした。具体的な状況のなかで、目の前の子どもたちと向かい合いながら、なにがほんとうに大切なことなのかを問いつづけ、その過程で自分たちが当たり前にしてきたことを問い直すとともに、その時代や社会に流通する支配的な言説を問い返してゆく実践的探求。そこに渦巻く熱い息吹に圧倒され、いったい自分になにができるのかわからなくなり、それでもそこに渦巻くものの意味を見つめ直しているうちに、そうか自分にできることがあるとすれば、この教師たちと問題を並び見る研究者になることなのだと思ってきました。

時代や社会の変化とともに研究所の意味が問われ、その役割が変わることはとても自然なことです。教師たちが外部のさまざまな研究機関とつながることで新たな視点をもつこともなくてはならないものです。しかし、もう一度いま、教師たちがつくった信濃教育会のただなかに研究所があることの意味に立ち返りたいと思います。目の前の子どもたちと向かい合う教師たちこそが実践的研究者にならないといけない。研究所がその息吹を広げる拠点になればと願っています。

令和6年度 第28回「教育研究論文・教育実践賞」 審査結果報告

第28回「教育研究論文・教育実践賞」の審査が終了しました。多数のご応募ありがとうございました。
特選論文は、雑誌「信濃教育」7・8月号に掲載いたします。また、7月10日(木)、11日(金)、14日(月)に入賞者によるオンライン上でのポスターセッションを予定しています。

【第2次審査員】

白井 宏之(豊科北中学校長) 三澤 潤子(玉滝小学校長) 白井 富健(長和町・和田小学校長)
根橋ほなみ(両小野小学校長) 上原 芳則(保科小学校長) 尾臺 博之(戸倉小学校長)

【第3次審査員】

西 一夫(代議員会代表・信州大学教育学部教授) 工藤 信一(外部審査員・信濃毎日新聞社論説委員)
早川 孝一(常任委員会代表・通明小学校長) 小野 英子(幹事会代表・豊野西小学校長)

【応募総数及び入賞者の内訳】

応募総数 112	個人の部 74	特選 1	準特選 2	入選 7	佳作・奨励賞 64
	グループの部 38	特選 1	準特選 1	入選 4	佳作・奨励賞 32

【総評】 審査委員長 西 一夫

第28回「教育研究論文・教育実践賞」の応募に対して、今年度は個人の部・グループの部あわせて112点の応募をいただきました。全県で教育活動に取り組まれている教職員のみなさんが日々の教育実践を理論化し、体系化することによって、個々の実践が全県の学校で共有されて児童・生徒の学びに資するものとなります。本年も両グループに多くの応募があったことから推せば、本教育研究論文・教育実践賞が、さまざまな教育活動を促進させる一助として位置付いているのでしょう。

新型コロナウイルスの蔓延によって、教育活動は大きな制限を受ける期間がありました。しかし、その期間はマイナス要因ばかりではなく、新たな教育活動を促進させたり、教育組織の団結を促したりする契機でもあったと言えるでしょう。

そうした困難や危機を耐え抜いたからこそ、これまでとは異なる新たな発想での実践報告が多数見られました。これらの中には新たな教育観に基づく授業づくりや学校づくりに取り組む姿勢が明確に示されています。このような姿勢で取り組まれた教育実践を単に時系列でまとめるだけではなく、データを蓄積して分析し、変化を的確に捉えることが大切になります。さらに得られたデータが何を意味しているのかを客観視する姿勢も重要です。自らが語り手となるだけでなく、得られた事象を冷静に捉え解釈する視点を持っていたきたい。そうした視点から分析・考察することが、地道に重ねられた実践が汎用性を持って広がることになるのです。

豊かな稔りは多くの教育場面で共有されなくてはなりません。直接的なかかわりが教育場面では大切な要素になります。これに加えて得られた実践成果を共有することも大切な関わり方であると思います。今回得られた成果が、多くの学校で独自の熟成を経て信州の児童・生徒の学びに資する宝として共有されることを切に願います。

【後 援】長野県教育委員会 長野県市町村教育委員会連絡協議会 長野県小学校長会 長野県中学校長会
長野県特別支援学校長会 長野県高等学校長会 長野県 PTA 連合会 信濃毎日新聞社

「めざせ ひらがな めいじん」

—小学校1年生に対するMIMを発展的に活用した

特殊音節の指導を通じて—

鈴木 海平（城山小学校）

初めて1年生担任となり、何ができるか考えた時、前任校で油井文子先生が取り組んでいたMIMを思い出し、その発展的活用を検討しました。文字に親しみ、自信をもって学びに向かう姿に繋がることを願った研究です。



【講評】早川 孝一

小学校1年生の国語科「めざせ ひらがな めいじん」の学習として、MIMを活用した特殊音節の指導法を改良・考案。「言葉を動作化した取り組み」「龍門タイムの運用」「保護者との連携」「学習習慣形成支援員との連携」という4点について継続的に実践し、児童の習得の様子を記したものである。

「言葉を動作化した取り組み」では、朝の会の活動として、一日の予定や給食メニューをルールに従った動作で示すことより、目に見えない音の特徴を、感覚的に体で覚え、特殊音節が学べるようになっていく。当初は教師がリードし、動作化のルールが定着してからは児童の当番・係活動として位置付けるという工夫もされている。このような日々の積み重ねの上に、週2回の「龍門タイム」における2種類の活動、学級通信や個別懇談会等を通じた保護者との取組の共有・連携、また、検証テストの結果を学習習慣形成支援員とも共有し、個別指導や机間指導に活かす等、重層的な取組が展開されている。

特に、これらの取組の成果が、毎月末の「MIM-PM」テストで検証され、数値としてその伸びが実証されている点、また、保護者と連携した取組がなされている点が審査会において高評価を得ていた。

児童生徒の多様化が顕著になる昨今、通常の学級において異なる学力層の子どもたちに、どのような指導を行ったらよいか悩んでいる教師にとって、すぐにでも実践できる内容であり、大いに参考になるものと思われる。

グループの部

子どもが自分をつくっていく「余白」のある学校づくり

～生み出した学校裁量『私の時間』で

子どもに育まれる多様な資質・能力～

新しい学校づくりチーム（佐久城山小学校）

教科に属さず、子どもに委ねられた「私の時間」で多様な資質・能力を獲得していく子どもと、子どもの「自分らしさ」を理解し続けようとして大人も成長できる学校づくりが評価されたことをうれしく思います。



【講評】工藤 信一

45分の授業時間を5分短くして生み出した一日20分の学校裁量の時間。そのうち週2回を「私の時間」とし、何をするかを子どもに100%委ねる。何の教科にも属さない「余白」の時間と位置づけて、教員の介入を避けると同時に、成果を発表する「アウトプット」も求めない。かなり思い切った取組である。それを教育課程の一部として明確に捉えたことが何より重要だろう。

バットの素振りや縄跳びをする子、料理をする子、野鳥の図鑑をつくる子…。それぞれのやり方で学びに向かう子どもの姿とともに興味深いのは、それを見つめる教員の側の「気づき」だ。教科ではないため評価の基準がない。だから、ひたすら子どもを理解しようと努めるしかなかったという。ただ見ていればいいのか、どう声をかけたらいいのか。問われたのは、子どもたち以上に教員たちだった。

裏返せばそれは、教員が目の前にいる子ども一人一人とどれだけ向き合っているかを捉え返す試みでもあったということだ。そこには、個々の教員の姿勢にとどまらず、過密な学習指導要領をこなすことに迫られる学校のあり方そのものを変えていく重要な視点と手がかりがあると思う。教育は本来、お仕着せで上から指図されるものではなく、現場の教員が日々、子どもと向き合っていくものだから。

取り組みはまだ初年度。この先の積み重ねの中で何が見えてくるのか。それが文字通りの「新しい学校づくり」にどうつながっていくのか。楽しみである。

準特選作品

【講評】 小野 英子

生徒が「まとまりのある文章が書けた！」と実感できる英語授業

山田 裕也（屋代高等学校附属中学校）

【講評】「まとまりのある英語の文章を書くこと」に課題があるととらえ、定義を明らかにして実証的に研究を進めている。実践を通して顕れた生徒のライティングにおける大きな変容には、とても興味深いものがあった。すんなりと入ってくる文章構成でまとめてあり、論文としても評価された。

数学の世界と現実の世界をつなぐ教材の研究 ～アポロチョコによる体積比の探究授業～

藤原 賢志（波田中学校）

【講評】「アポロチョコ」という身近なものから発想を得ており、着眼点が面白い。教材研究には教師も一緒に学ぶ姿勢が色濃く現れており、探究的なアプローチとして評価される。数学的モデルと実際のとのずれから生じた生徒の「問い」が、多様な視点で、課題解決に向かう探究へとつながり、日常生活にもいきる題材であった。

子どものよさに呼応する校内研究における効果

授業改善・研究推進委員会（長小学校）

【講評】児童の実態から顕かになった課題に向き合い、「自己発揮」をキーワードとした改革を継続的に推進した。先生方の意識が徐々に変わり、そこから湧き上がってくる渦が次第に大きくなり、一丸となった取組へと高まっていく様子、そしてそれが子どもに還っていく経過が、論文と豊富な資料から伝わってきた。

入選作品

- 人とつながる 願いが広がる ～地域のホタルとのかかわりを通して～ 吉池 直樹（上田市・東小学校）
- よりよく生きる力を育む ～高空学級の生徒とともに～ 平塚 広司（原中学校）
- 自分の健康に主体的に向き合う子どもの育成を目指して 吉越 友唯（両小野小学校）
- 「教えない授業」生徒が自ら学びをデザインする授業を目指して
～自分でToday's goalを考え、授業をデザインする英語の授業～ 鈴木 雅美（飯島中学校）
- 「地域に学び、地域に還る学習」を通して生徒の学びの深化を目指す実践研究
—中学校美術部、生徒会活動を中心とした継続的な地域連携活動の経過に着目して— 百瀬 雅也（竜峡中学校）
- 歴史的文化財を活用した総合的な学習の時間の在り方
～聖南中学校善光寺街道グループが目指す地域を活性化するウォークイベント～ 中村 淳志（聖南中学校）
- ひとつの授業をみんなで～苦手な体育への挑戦～ 山崎 満美（野沢温泉小学校）
- 探究することは成長すること ～伊那中マイチャレンジの実践から～
伊那中学校マイチャレンジ担当職員（伊那中学校）
- 持続可能で探究的な総合的な学習の時間の在り方
「南木曾未来プロジェクト～少し先の未来を考える～」を通して 南木曾中学校3学年会（南木曾中学校）
- 「探究のレベル」の視点での授業づくり ～探究的な学習の捉え方に焦点を当てて～
令和6年度研究部（信州大学教育学部附属長野中学校）
- Go beyond the frame ～1番おもしろい学校を目指して～
JyotoElementaryNeo-Educators（城東小学校）

応募型研修助成

会員の自主的な研修・探究心を後押しします

昨年度の会員アンケートからは、本事業について「気軽に申請できるのでよい」「継続的に自主的な校内研修補助を活用している。是非続けてほしい」と好評をいただいています。一方、この事業について48%の方が“知らない”と回答されていました。「もっと周知してほしい」というご意見もございました。リーフレットや会報、ホームページでご案内しておりますので大いにご活用ください。

なお、R7年度からより多くの会員にご利用いただくために、実施内容を一部変更しました。特に、「学び続ける教師への助成」に特別支援教育にかかわる助成を加えました。申請の際は、信濃教育会ホームページでよく確認してからお申し込みください。

(参考) R6年度助成実績：会報1121号（R6、12月）

短期視察研修補助

- ☐ 補助金は、会員本人への補助、所属校へは後補充者への謝礼補助
- ☐ 1日15,000円を基本額とし以後1日につき5,000円を増額
- ☐ 補助金は2年に1度（郡市教育会の補助を受けている場合は原則対象外）
- ☐ 「学び続ける教師への助成」と同一年に重複して受けられない

会員アンケートより

教師としての視野を広げる上で大変役立つ。私もかつて利用させてもらいました。

自主的校内研修補助

- ☐ 学校独自に行う研修への補助 ※毎年申請可
- ☐ 補助金は、1校10,000円+20,000円×会員率（会員数／県費教職員数）
- ☐ 講師（校内講師は対象外）謝礼、資料作成等、研修に必要なものへの支出

教師の研修を支えていく非常に有効な事業。ぜひ続けてほしい。

学び続ける教師への助成

- ☐ 助成金は、会員本人への助成
- ☐ 学術分野における研究調査活動並びに専門的な知識・技能の習得（スキルアップ）に対する助成
〔助成の例〕○個別最適な学び・協働的な学び・探究的な学び等に関する研究
○自然科学及び人文科学に関する研究調査
○特別支援教育にかかわるスキルアップ 等
- ☐ 助成金は1人上限5万円、助成は2年に1度
- ☐ 「短期視察研修補助」と同一年に重複して受けられない

申請や報告書が簡単でありがたい。

◎ 申し込みについて

信濃教育会 HP のトップページの上のメニュー「研修補助金」にカーソルをあていただくとプルダウンメニューとなります。それぞれの実施内容や申請書類等がご覧になれます。

※「自主的校内研修補助」は6月末日までに申込書を提出ください。「学び続ける教師への助成」及び「短期視察研修補助」は予算額が終了した段階で申込みを終了といたします。



教育研究所だより

教育実践の『振り返り』と『学び合い』

令和7年度 創設79年目 新所長を迎え、
新しい研究員の研究が始まりました

第79期研究員の先生方6名は、「子どもの学び
が深まる授業づくり」をテーマに研究に取り組
みます。

第78期研究員の先生方6名は、教育現場に戻
り、実践研究に取り組んでいます。



第79期 研究員紹介 ① 趣味 ② 最近読んだ本



- ① 釣り、スキー
- ② 『秘伝「信州教育の極意」』
(信濃教育会)



- ① 旅行、ライブ、
古着屋巡り
- ② 『朔と新』(いとうみく)



- ① 子どもと遊ぶこと
- ② 『神様のカルテ』
(夏川草介)



- ① 読書
- ② 『「エミール」を読む』
(苦野一徳)



- ① 公園巡り、ゴルフ
- ② 『DIE WITH ZERO
人生が豊かになりすぎる
究極のルール』
(ビル・パーキンス)



- ① お料理、アフタヌーン
ティーへ行くこと
- ② 上橋菜穂子さんの
守り人シリーズ

5月の研修ガイド

10日(土) ●北安曇教育会総集会における講演会 ◎大町西小学校 ◇湯本晴彦(渋温泉 春蘭
の宿さかえや代表取締役・山ノ内町町会議員) ☆北安曇教育会 0261-22-0440

17日(土) ●公益社団法人下伊那教育会総集会 ◎飯田文化会館 大ホール ◇山本恵里 ☆下伊那
教育会 0265-52-0808

●更埴教育会総集会 ◎更埴教育会館及び郡市内各校・ハイブリッド開催 ◇「共に豊
かに生きられる共生化社会を目指して」ピーター・フランクル(ハンガリー出身の数
学者・大道芸人・タレント) ☆更埴教育会 026-272-0247

●令和7年度総集会◎長野上水内教育会館・参集およびオンライン
◇座談会「Tomorrow's School～私たちがNZで学んだことをどう生かすか～」
ファシリテーター: 田川昌彦(事務局長)、助言者: 伏木久始(信州大学教育学部教授)
☆長野上水内教育会 026-226-2458

21日(水) ●総研修会「仰望の日」 ◎伊那文化会館 ◇渡部陽一(戦場カメラマン・フォトジャー
ナリスト) ☆上伊那教育会 0265-72-3416

29日(木) ●新任者研修会 ◎下伊那教育会館講堂 ☆下伊那教育会 0265-52-0808

●名称 ◎会場 ◇演題・講師等(講師名敬称略) ☆連絡先

.....災害見舞金事業 (SSS)のご案内.....

会員であれば見舞金が支給されます！！

災害や日常生活でのケガなどが対象となります。

ニックネームは“SSS”（スリーエス）。以下のような意味を込めて考えていただきました。

「信教」「災害」「サポート」 又は 「すぐに」「知らせて」「支援を受けよう」

年度年齢61歳以上の方は令和6年度より見舞金をアップしました。

詳細についてはホームページをご覧ください。

令和6年度の見舞金支払状況

＜見舞金交付該当数と見舞金総額＞

該当数：58名（件） 総額：6,173,230 円

内訳と詳細	該当数	見舞金支払額
死亡	1名	1,500,000円
災害入院	15名	1,134,500円
災害通院	39名	1,149,500円
自然災害による不動産の損害	3件	2,389,230円

令和7年3月31日現在

年度年齢61歳以上となる皆さま

明日も笑顔で！

「健康」をサポートする教師塾Sの開催と「安心」をサポートする災害見舞金を提供します。

会費は減額になります。

会費月額 500 円

(5月～2月)

年度年齢 61 才以上

×

教師塾 S

▲健康

災害見舞金の増額

▲安心

後に続く教職員の学びの充実のために

は、61才以上の皆さまのお力が必要です。会員であればこれまで同様、信濃教育会のすべての講座・講習、研修会の参加費が無料です。実年会員の皆さまにとりましても魅力的な信濃教育会事業としてまいります。引き続き会員として共に学びましょう。

教師塾 S のご案内

50代後半からの実年会員を優先(61歳以上は最優先)

開催日は共に10月4日(土)

東北信(飯山市)

甘党 辛党 大集合

- ★「田中酒造」酒蔵見学 テイスティング
- ★「パティスリーヒラノ」ケーキとコーヒー
- ★「つるの湯」郷土の料理と飲み物

中南信(上伊那)

これも教育の「みそ」なのです

- ★「ハナマルキ」みそづくり体験館見学 みそづくり体験
- ★赤そばの里見学 昼食

↓↓↓昨年度まで「全県研究大会」として実施してきました公開研究会の名称を変更しました！↓↓↓

学び創造研究会

立候補制により応募いただいた研究校・研究者の皆様が、子どもと共に“学び創造”に挑戦し、その成果を広く公開していただきます。「学び創造研究会」が、職能の向上や“学び合いの輪”の広がりにつながることを願い、皆さまのご意見をいただきながらこの事業を進めていきます。

本年度はこの 24 研究が公開されます！

公開日【研究者】★
◇共同研究者

小学校

- 10/27 (月) 【軽井沢町立軽井沢西部小学校】
◇赤坂真二 (上越教育大学) 学校経営
- 10/31 (金) 【松本市立開智小学校】
◇岩瀬直樹 (軽井沢風越学園校長) 探究的な学び
- 11/ 6 (木) 【伊那市立伊那東小学校】
◇佐藤和紀 (信州大学) 授業づくり
- 11/ 6 (木) 【赤穂小学校
単元内自由進度学習部会】
◇佐野亮子 (東京学芸大学) 自由進度
- 11/ 6 (木) 【長野市立三本柳小学校】
◇岡野 昇 (三重大学) 授業づくり
- 11/12 (水) 【飯田市立千栄小学校】
◇伏木久始 (信州大学) 少人数・複式
- 11/14 (金) 【安曇野市立豊科南小学校】
◇伏木久始 (信州大学) 子どもと教師
- 11/21 (金) 【原村立原小学校】
◇安積順子 (箕輪町教育委員会) 豊かな関係性
- 11/21 (金) 【伊那市立高遠小学校】
◇山浦貞一 (信州大学) 道徳
- 11/28 (金) 【池田町立池田小学校】
◇村瀬公胤 (麻布教育ラボ) 授業づくり
- 11/28 (金) 【小林大真 (栗ガ丘小)】
◇佐藤和紀 (信州大学) 自立した学び
- 11/28 (金) 【三輪小学校研究推進部】
◇宮野 尚 (信州大学) 学校づくり
- 11/28 (金) 【臼井 拓哉 (四賀小・松本市)】
◇藤田育郎 (信州大学) 体育

中学校

- 10/14 (火) 【長野市立櫻ヶ岡中学校】
◇渡辺貴裕 (東京学芸大学) 授業づくり
- 10/17 (金) 【遠山恒輝 (埴生中)】
◇大井和彦 (信州大学) 国語
- 10/27 (月) 【佐藤広基 / シェリー・ユー
(日義小中)】
◇直山木綿子 (関西外国語大学) 英語
- 10/28 (火) 【金田 弦樹 (真田中)】
◇植原俊晴 (信州大学) 理科
- 10/29 (水) 【月岡 純平 (竜東中)】
◇齋藤博伸 (文部科学省) 総合的な学習
- 11/ 7 (金) 【伊那市立伊那中学校】
◇臼井 学 (豊科南中学校長) 子どもの学び
- 11/ 7 (金) 【都筑 彩花 (旭ヶ丘中)】
◇佐藤大樹 (文部科学省) 複線型授業
- 11/ 7 (金) 【小林 厚志 (屋代高等学校附属中)】
◇西 一夫 (信州大学) 国語
- 11/14 (金) 【長野市立松代中学校】
◇岩川直樹 (埼玉大学) 教師の学び
- 11/21 (金) 【松本市立女鳥羽中学校】
◇中村麻由子 (大東文化大学) キャリア学習
- 11/28 (金) 【佐久市立東中学校】
◇北澤嘉孝 (信州大学) 縦割り総合

各研究の詳細は、信教 HP、「Booklet 信教」で随時お知らせしていきます。参加申し込みの開始は8月下旬を予定しています。

ホームページ・公式 SNS 等のご紹介

信濃教育会の最新の情報をお伝えします。ぜひご活用ください。

ホームページ

信州子ども絵画 100 年館収蔵作品や総集会の様子など、様々なコンテンツをご用意しています。



メール配信を希望される方は
こちらから



※Google フォームが開きます。

公募委員、講座・講習等の募集申込みが始まりました!!

公募型研究調査委員 * 申込締め切り

- ・「新しい時代の教育」
研究調査委員会 * 5/9 金
- ・「探究的な学び」
研究調査委員会 * 6/30 月

講習・講座 * 申込締め切り

- ・基礎講座「合唱」 * 4/21 月
- ・基礎講座「オーケストラ」 * 5/9 金
- ・「極意」伝承道場 * 5/16 金
- ・教師塾 A * 5/22 木

詳細は信濃教育会ホームページのトップページ下部
「各種申込みはこちら」からご覧ください。

各種申し込みはこちら >



信濃教育会職員の異動についてお知らせします。

退任

佐伯 胖
(信濃教育会教育研究所所長)

竹前 傳藏
(研究調査部 兼
信濃教育博物館嘱託職員)

細萱 利子
(信濃教育会生涯学習センター主任)
※4月1日より嘱託職員

新任



岩川 直樹
信濃教育会教育研究所
所長



馬淵 勝己
教科用図書研究部部長
兼信濃教育会生涯学習センター部長



伊藤 和子
信濃教育会生涯学習
センター嘱託職員

好評
発売中

信州の先人と現役教師の出会いの書。ぜひ、ご購入ください。

秘伝「信州教育の極意」

—信州教育として大切にされてきた言葉— 公益社団法人 信濃教育会編

「一介の教師である私たちには、偉大な先人たちの取組を、評論家や研究者のような立場で論ずることはできない。だが、同じ『信州教育』という営みの流れの中で、末席に連なっている立場からならば、私たちにも、『あこがれ』として先人の取組を語ることはできる」

(秘伝「信州教育の極意」編集委員会 宮下聡委員長 あとがきより)



膨大な資料集めとファクトチェックを重ねて、発刊に至りました。

4年の年月をかけ、のべ61人の現役教師が執筆者として、45名の先人の言葉を集めました。先人が活躍した場所に足を運んでその土地の風景と空気を体感し、また、先人のご遺族と直接お話をし、そして、専門家から直接助言をいただいて、「信州教育の極意」を学びました。

■仕様 A5判・並製・カバー装、総ページ数 136ページ ■定価 1500円(税込み)



発行／信州教育出版社
Tel 026-232-0291



取扱い／しんきょうネット
Tel 026-233-1135 Fax フリーダイヤル 0120-25-1098

信濃教育

予告



私の「学級づくり」

出河和穂さんは絵を描くことが大好きで、中学三年間、風景やイラストなど様々な作品をたくさん描いてきました。特に今年度は、中学校生活最後ということで、学校の中で一番好きな場所でもある「図書室」を描き上げました。

彼女が普段から本を読むことが好きで、図書室に毎日のように通い、多くの本を読んできました。そして、三年間お世話になった「図書室」を描こうと決めたそうです。

一点透視を使って奥行きある空間をうまく表現し、また本の形や大きさを一冊一冊変えて表現するなど細部まで心を込めながら丁寧なタッチで表現しています。そして、水彩絵の具を使って色を工夫することで、図書室の明るさや温かさを感じる作品となりました。

指導者
久保田充徳（広徳中学校）

100年館の総

令和6年度 永年保存作品
今を生きる子どもの絵



「図書室」

出河 和穂（広徳中3年）

信濃教育博物館所蔵

「信濃教育会報」カラー版は信濃教育会ホームページの「会員のページ」でご覧いただけます。



公益社団法人
信濃教育会

〒380-0846 長野市旭町 1098 TEL 026(232)2470
URL <https://shinkyō.or.jp> ✉ shinkyō@shinkyō.or.jp
編集兼発行人／大日方貞一

